

志賀直哉年譜考（十三）

——明治四十一年一月から六月まで——

生 井 知 子

明治四十一年（一九〇八）（数え二十六歳・満二十四歳）二十五歳

1・1（水） 直哉は墓参。午後、武者小路実篤が来宅。夕方、武者小路実篤を送って、正親町公和を訪問。（日記）

直哉は池田讓次に年賀状を書く。（M41・1・1池田讓次宛書簡）

木下利玄が直哉に絵葉書を書く。二日の消印。修善寺から昨夜帰京したとのこと。（『志賀直哉宛書簡集』）

1・2（木） 午前から直哉は福引を作り、午後に福引をする。（日記）『小説 苔の床』執筆。（未定稿35）

1・3（金） 午前、直哉は自室に人を集めて話す。（日記）

1・4（土） 午後、直哉は林三郎の所に行き、犬の子を貰う。（日記）

1・5（日） 直哉は、昨日貰った犬を鷲と命名し、犬と遊ぶ。夜、『苔の床』を一寸直す。（日記）

1・6（月） 武者小路実篤と正親町公和が志賀家に来宅。（日記）

1・7（火） 直哉は午後、武者小路実篤を訪問。夜、里見弴を訪問。（日記）

1・8（水） 午後、直哉は丸善に行く。武者小路実篤・里見弴と一緒に浮世絵を買い、帰途、演伎座で「妹背山御殿」を見る。

（日記）（『続々歌舞伎年代記』坤の巻）

1・9（木） 米津政賢と木下利玄が志賀家に来宅。直哉は風邪で具合が悪い。『苔の床』を読んで聞かせる。（日記）（木下利玄日記）

1・10（金） 午後、直哉は木下利玄を訪問。正親町公和、武者小路実篤も来ている。春陽堂版当用日記に載せられた小説・随筆の抜粋を読んで作者名をあてて遊ぶ。夕食後、正親町公和は辞去するが、三人で高浜虚子『病児』・泉鏡花『樽物語』を朗読。八時辞去。（日記）（木下利玄日記）

有島生馬へ手紙を書き、浮世絵と高浜虚子の小説『鶏頭』を送る。彫刻を始めたそうだね、ロダンに学ぶつもりか、セザンヌについての有島生馬の手紙を貰って興味を持っていた、有島武郎とはちよいちよい面会した、入営中は勿論、出てからも二、三度訪問し、一度訪問を受けた、里見弾とも時々会う、有島行郎とも遊び友達になって、よく中野の神田乃武の別荘でテニスや野球をした、などと書き送る。（日記）（M41・1・10有島生馬宛書簡）

*中野の桃園には神田乃武の別荘があった。郡虎彦が寄寓していた。（座談会『志賀直哉日記をめぐって』）

*『美術雑誌』「白樺」時代」には『セザンヌ』といへば、有島が外国から手紙で、技術からいへば一画書生にも及ばぬと紹介されたことを憶えてゐる。勿論感服して知らしてよこしたのだが。』とある。

1・11（土） 直哉は風邪で朝から寝る。「ホトトギス」「早稲田文学」、泉鏡花『草迷宮』を読了。（日記）

1・12（日） 直哉は風邪で午前は在宅、午後、落語研究会へ行く。夜、武者小路実篤・柳宗悦が来宅。（日記）

有島生馬が直哉に絵葉書を書く。麻布二月六日の消印。（『志賀直哉宛書簡集』）

1・13（月） 朝、起きないうちから、直哉は志賀留女と喧嘩。午前、墓参・法事。午後、正親町公和を訪問。木下利玄が来ている。

武者小路実篤も来る。木下利玄の歌の評をし、四時に辞去。夜、林三郎が来宅。Cへ手紙と十円送る。（日記）（木下利

玄日記）

1・14（火） 直哉は朝から、昨日の喧嘩を書いた『非小説、祖母』執筆。（↓後の『或る朝』）（日記）

*後に対談『小説について』の中で、直哉は『或る朝』について『短い、あんな作品で、書く要領が分ったというの
はおかしいけれど、それまでは無駄を書いて仕様がなかったんだね。非常に細かいこと迄書いてね、その癖がなか
か直らなかつた。そのために、書いていて纏まらなかつた。途中で皆駄目になつてしまつた。人間の動作なんかもい
ろいろと細かく書いてしまつてね。』と発言している。

1・15(水)

直哉は午後、一人で東京座に行き、「東風物語」の新派芝居を見る。喜多村緑郎・高田実・五味国太郎・伊井蓉峰な
ど。喜多村緑郎の女形を初めて見た。子役の高田亘がいいと思う。東京座から木下利玄に絵葉書を出す。(日記)(M
41・1・15木下利玄宛書簡)(続々歌舞伎年代記 坤の巻)

1・16(木)

夜、林三郎が志賀家に来宅。(日記)

1・17(金)

午前、武者小路実篤が志賀家に来宅。午後、直哉は銀座から丸善に行く。夜、麻布亭に行く。(日記)

1・18(土)

午後、直哉は中野に行く。(日記)

武者小路実篤が直哉に葉書を書く。直哉の新作をホトトギス派と自然派の間にある作で、事実によつていただけ奥行
がある、皆生きていと褒める。(『武者小路実篤全集』)(『志賀直哉宛書簡』)

1・19(日)

直哉は大崎の水すべりに行く。午後、中野で遊ぶ。木下利玄が来宅。(日記)

1・20(月)

午前、直哉は有島生馬・田中平一・末永馨・半谷・岩下家一・木村・里見淳に葉書を書く。午後、木村家訪問。明治
座の「ベニスの商人」を見る。バーナード・ショーの戯曲を買い、夜、林三郎を訪問。帰りに組幸の「壺坂靈験記」
を聞く。(日記)(『続々歌舞伎年代記』坤の巻)

1・21(火)

午前、志賀留女が神経痛で苦しむ。午後、正親町公和が志賀家に来宅。(日記)

有島武郎が『兵営ニアル間二起リシ結婚ノ問題ハ我が身ニ瘡ス可ラザル深キ疵ヲ与ヘヌ。』《安子ノ身ノ上、志賀ノ悲
劇、其他思ヒ設ケザル事共ハ我が兵営生活ノ間二起リヌ。》と日記に記す。(有島武郎『観想録』)

- 1・22(水) 午前、直哉は会計の帳面の部類分けをする。(日記)
- 1・23(木) 直哉は、朝一人で大崎に氷すべりに行く。武者小路実篤を訪問。木下利玄・正親町公和も来る。(日記)
- 1・24(金) 直哉は歌舞伎座で「通俗西遊記」を観劇。猿之助の孫悟空。(日記)〔続々歌舞伎年代記〕坤の巻
- 1・25(土) 午後、直哉は正親町公和を訪問。夜、里見弴を訪問。(日記)
- 1・26(日) 午前、直哉は内村鑑三の所に行く。午後、木下利玄を訪問。新井雨泉が来ており、紹介される。米津政賢も来る。芝居小説など文芸の話をし、夕方辞去。(日記)〔手帳10〕補⑤P 277(木下利玄日記)
- この頃 直哉は、『工夫の妻』の単行本の表紙を考える。(手帳10)補⑤P 277 P 279、280にも構想メモあり)
- 1・27(月) 午前、武者小路実篤が志賀家に来宅。午後、直哉は散歩し、樋口一葉の墓参。(日記)
- 1・28(火) 直哉は風邪のため、正親町公和の所へ集まる筈なのを断って寝る。中井常次郎の診察を受ける。(日記)
- 1・29(水) 直哉は多少回復。午前から武者小路実篤が来宅。武者小路実篤の『不幸なる恋』を傑作と思い単行本を出すように勧める。(↓後『荒野』所収)夜、西鶴の『好色一代男』を読む。(日記)〔武者小路実篤『旧稿の内より(潔の日記)』「単行本熱」)
- 1・30(木) 直哉は西鶴の『好色一代男』を読了。午後、正親町公和が来宅。正親町公和の小説を読むが感心しない。(日記)
- 1・31(金) 直哉は西鶴の『好色一代女』を半分読む。夜は『郡のザンゲ』を三回だけ書く。(↓後の『手帳12』補⑥P 10~11、後の「フット5」補⑥P 214~220『広田の懺悔』(日記)
- 2・1(土) 夜、林三郎が志賀家に来宅。直哉は『郡のザンゲ』を少し書く。米津政賢から『朝』(↓後の『或る朝』)を大変褒めた評が来る。(日記)
- 武者小路実篤が直哉に葉書を書く。単行本出版に傾きつつある事、雑誌も四月から出してもいいと思う事などを書き送る。(武者小路実篤全集)

2・2(日) 直哉は、内村鑑三の所に行く。「ルカ伝」第十六章。午後、正親町公和の家で十四日会。武者小路実篤は二枚の短篇

正親町公和・木下利玄・直哉は未完成作品。出来た部分だけを読む。夕食後も雑談。寺田、尾崎康二が来る。木下利玄と四谷見付まで一緒に帰る。(日記(木下利玄日記)〔手帳10〕補⑤P278)

有島生馬が直哉に絵葉書を書く。パリの消印、麻布二月二十二日の消印。正月以来、雑誌のことで忙しいだろう、もう出る頃だなどと思う、大学にはもう通学していないのか、など。(志賀直哉宛書簡集)

2・3(月) 武者小路実篤の所で、吉光長一(空華)の三回忌をする。(日記)

2・6(木) 直哉は正親町公和の所に行く。武者小路実篤も来る。(日記)

2・7(金) 午後、直哉は丸善に行き、武者小路実篤と会って一緒に帰宅。(日記)

2・9(日) 午前、直哉は、内村鑑三の所に行く。「ルカ伝」第十六章の十九。木下利玄の家に立寄る。武者小路実篤も来ている。

山岸を訪問し、武者小路実篤の本を頼む。『工夫の妻』の構想を手帳に記す。(日記(木下利玄日記)〔手帳10〕補⑤P278)

〔280〕

2・10(月) 夜、直哉は内村鑑三の茶話会に出る。(日記)

2・11(火) 午後、直哉は三島弥吉の所に行く。二十数人集まる。(日記)

2・12(水) 午前、直哉は志賀直方に頼まれた大礼服を持って中川に行き、裁縫職人の特徴は無口だと聞く。午後、市村座で観劇。

「檀太鼓成田仇討」を見る。柳盛座に初めて行く。「熊谷陣屋」を見るが、ひどいもの。黒木三次が来宅。(日記〔手帳10〕補⑤P280)〔続々歌舞伎年代記〕坤の巻)

武者小路実篤が直哉に葉書を書く。直哉の批評に対して不服な所を述べる。(『武者小路実篤全集』)

2・13(木) 午前、直哉は一人で大崎の水すべりに行く。午後、武者小路実篤の所に行き、夜、里見淳の所に行つて十一時まで話す。(日記)

この頃か？ 直哉は、木下利玄・里見弴との関西旅行の計画を立て、手帳に記す。(「手帳10」補⑤P280～281)

直哉は一人で旅行の日程を考え、十日あまりの旅だが三十五円くらいかかる、頑張って両親を説得するように、という手紙を添えて里見弴に送った。(里見弴『若き日の旅』(里見弴『君と私』十六)

2・14(金) 午後、直哉は朝日新聞社に行つて講演の切符を買い、山岸を訪問して武者小路実篤の原稿を渡す。錦絵を買つて、里見弴を訪問。(日記)

武者小路実篤が直哉に葉書を書く。『恋愛神聖論者』を『隣室の話』と直した、本は三月中に出したいと思う、など。(武者小路実篤全集) (志賀直哉宛書簡)

2・15(土) 直哉は神田の青年会館へ朝日講演会を聞きに行く。内藤鳴雪、夏目漱石、三宅雪嶺「不得要領」など。(日記)

*三宅雪嶺「不得要領」は大変面白かった。(演説の印象)

2・16(日) 午前、直哉は志賀直方、太田登志彦らとひなたぼっこ。岩下家一に手紙を書く。午後、里見弴、児島喜久雄、正親町実慶が来宅。(日記)

有島生馬が直哉に絵葉書を書く。パリ十七日の消印、麻布三月七日の消印。昨日無事に浮世絵が届いたとのこと。(志賀直哉宛書簡集)

2・17(月) 午後、直哉は日本橋の正金銀行に行つたが四時過ぎで駄目だった。郵便局も駄目だった。真砂座で「俠艶録」を見る。帰途、玉の井亭で、昇之助の「本朝廿四孝」四段目(十種香)をほぼ一年ぶりで聞く。(日記) (『続々歌舞伎年代記』坤の巻)

2・18(火) 直哉は中央郵便局で岩下家一に二百円を送金。武者小路実篤の家に行く。正親町公和も来る。帰途、里見弴の所に寄り、演伎座で「大杯觴酒戦強者」を見る。夜、正親町公和の『霞の奥』を読む。田中平一からエリナー・グリンの「Three Weeks」が来る。警醒社が武者小路実篤『荒野』の出版を引き受ける。(日記) (『続々歌舞伎年代記』坤の巻)

2・19(水)

*“Three Weeks”は、アメリカでベスト・セラーになったいかがわしい本だった。(座談会『志賀直哉日記をめぐって』)
午後、直哉は正親町公和の『霞の奥』を評し、山岸を訪問の後、正親町公和を訪問する。(日記)

直哉は、手帳に、一家の不和の原因を、①志賀家における直哉の権力を守ろうとする留女の心が父母に不快である事、②血のつながらない浩と直哉との関係は、母子というより兄嫁と義弟のものに近く、浩は直哉を夫と同列に扱う事、浩には直温との関係を調和してくれるだけの力も余裕もない事、③直哉と直温とは振り返るといふ事が出来ない性質がそっくりである事と分析し、更に④《血に於て最も近きものは父である、此所に解らない一種の情がある、可笑しな事は、例へば人に、「貴君はだんく父上に似て来た」といふやうな事をいはれる、こんな時余は一種くすぐられるやうないふにはれぬ妙な嬉しさを感じる。これ程不和な、父を父とも思はぬ余がかういはれてそれ程嬉しく思ふのは変ではないか、余は此所に脈があるといふのである 余にかういふ感じのある事を夢にも父は知らないのだ。父にもこれに似た感情があるかも知れない、多分あるだらう、》《一家の不和 何が悪いといつて、死ぬだお母ッさんが一番悪い。》と記す。(「手帳10」補⑤P 282～284)

2・20(木)

武者小路実篤が直哉に葉書を書く。金はいつでも良いそうだ、今清書している、など。(『武者小路実篤全集』)
直哉は“Three Weeks”を読む。夜、林三郎が来宅。(日記)

2・21(金)

午前、武者小路実篤が志賀家に来宅。午後、直哉は、荒川へ行って口絵を頼み、木下利玄を訪問。高浜虚子の『三十五歳』を読み、夜、山岸を訪問。泉鏡花『婦系図』を読む。(日記)
木下利玄が大学図書館から直哉に葉書を書く。二十三日か二十五日の午後、志賀家に行きたい、昨夜、正親町公和が来た、正親町公和の『酒と本』はこれまでの中で一番良いと認めた、など。(『志賀直哉宛書簡』)

*二月二十日の木下利玄日記では、武者小路実篤と直哉が、『酒と本』は正親町公和の今までの作の中で一番いいとほめたとある。(木下利玄日記)

- 2・22(土) 直哉は泉鏡花『婦系図』（前編）を読了。蔵書印を押す時、気に入った印を作ることを考えて、志賀直道からの古手紙を読み、祖父の情を感じる。午後、岡野、黒木三次、木村節へ手紙。夜、「Three Weeks」を読む。（日記）（手帳10 補⑤P 285～287）
- 2・23(日) 午前、直哉は荒川に行き、午後、家族と演伎座見物。夜、武者小路実篤を訪問。木下利玄が来ている。単行本の話、小説の話をする。（日記）（木下利玄日記）
- 2・24(月) 夜、林三郎が志賀家に来宅。（日記）
- 2・25(火) 午前、直哉は「Three Weeks」を読む。午後、木下利玄・武者小路実篤が来宅。武者小路実篤の『妾の子』を読む。（日記）
- 2・26(水) 直哉は「Three Weeks」を読了。夜、泉鏡花の『政談十二社』を読了。（日記）
家出をした男女が行き倒れになり、それぞれの家へ送り返される話を考える。（手帳10 補⑤P 290）
- 2・27(木) 午後、直哉は武者小路実篤を訪問。寺田健一・木下利玄が来る。帰途、細川護立の家に寄る。（日記）
- 2・28(金) 午後から直哉は正親町公和の家にいき、武者小路実篤と警醒社に行つて原稿を渡す。（日記）
木下利玄が直哉に絵葉書を書く。二十九日の消印。（志賀直哉宛書簡集）
- 2・29(土) 直哉は一日不快。（日記）
- 3・1(日) 直哉は内村鑑三の所に遅刻する。山岸に寄り、田村寛貞を訪問。里見弴の所に寄つて正親町公和の家にいき、武者小路実篤と会う。（日記）
有島生馬が直哉に絵葉書を書く。パリ六日の消印、麻布三月二十六日の消印。（志賀直哉宛書簡集）
- 3・2(月) 午前、直哉は七、八軒へ葉書を書き、午後、藤田を見舞う。途中広重の『東海道五十三次』と『光琳画譜』を買う。
浅草公園で活動写真を見る。夜、宮戸座で「古代形御詠新染」などを見る。鬼丸・源之助など。「趣味」を読む。（日

記（『続々歌舞伎年代記』 坤の巻）

3・3（火）

鎌倉から、志賀直方・峯夫妻が来る。田中平一から直哉にミレーの本が届き、『草迷宮』を送る。（日記）
直哉は、手帳に『お為と由夫』に関する《恋し合った夫婦より好き合った夫婦の方が、平和で長い親しみを保てる。》というメモを記す。（手帳10）補⑤P291

武者小路実篤が直哉に絵葉書を書く。（『武者小路実篤全集』（『志賀直哉宛書簡』）

3・4（水）

直哉は《彼が唯一の楽みは夢のやうな過去を夢のやうに思ひうかべる事である》《将来は彼にとつて長い鉄管を覗くやう》で、その先は《死》でふさがれていると手帳に記す。（手帳10）補⑤P291～292

木下利玄が直哉に葉書を書く。ドイツ語の試験勉強はまだ一生懸命にはしていない、など。（『志賀直哉宛書簡集』）

3・5（木）

本郷の川村弘が直哉に手紙を出す。直哉が葉書で知らせてきた十五日の会に出席するとの返事。（『芳舟遺稿』所収川村弘書簡）

3・6（金）

木下利玄が直哉に葉書を書く。ドイツ語は今朝から頑張りだした、「落の字の方が御為」という直哉からの葉書に慰められた、米津政賢から来週火曜日に直哉と来られないかと言って来たが、来週木曜日の方が好都合だ、など。（『志賀直哉宛書簡集』）

賀直哉宛書簡集』）

3・8（日）

午前、直哉は内村鑑三の所に行く。「ルカ伝」第十七章。午後、中坂下の教会で、戸川秋骨・島村抱月・相馬御風らの話を聞く。明治座で「鶯娘」を見る。（日記）（手帳10）補⑤P295～296（『続々歌舞伎年代記』 坤の巻）

* 戸川秋骨の『サロメ』の話を聞いて、下手だが人間のいい感じが頭に残った、というのはこの時のことか？（『演説の印象』）

木下利玄が直哉に葉書を書く。ドイツ語の試験は失敗した、米津政賢から木曜は都合が悪いと言ってきたので、十日に行こう、など。（『志賀直哉宛書簡』）

- 3・10（火） 午前、直哉は武者小路実篤の所に行き、午後、米津政賢の所に行く。木下利玄と話す。（日記）
- 3・13（金） 直哉は、木下利玄の家で一万五千里生の名で『小説 電信柱』執筆。来年「白樺」を発行すると、一回六十円の損が出るが、その費用をめぐつてのアイデアを記す。（未定稿37）
- 3・14（土） 直哉は午後一時頃、木下利玄の家に行く。十四日会。木下利玄は「仲なほり」第二作を読む。直哉は福吉町で迷子に会い、芝の警察署に届ける。（日記）（木下利玄日記）
- 3・15（日） 直哉は午前、内村鑑三の所に行く。「ルカ伝」第十七章の二十から。午後、中野に行く。夜は睦友会。（日記）（手帳10）補⑤P297
- 3・16（月） 午後、武者小路実篤が志賀家に来宅。（武者小路実篤『旧稿の内より（潔の日記）』「力だけ」）
- 3・17（火） 午後、里見弾・木下利玄が志賀家に来宅、直哉と関西旅行の話をする。木下利玄に、一緒にパッチを古着屋に買いに行つてほしいと頼まれ、一旦は引き受けるが、たまらなく嫌になつて断る。せいぜい五十銭安い買い物をするためにわざわざ他人のために出かけるのは侮辱されたような気がすると葉書に書いて木下利玄に送る。夜、林三郎が来宅。（日記）（手帳10）補⑤P297）299
- 有島生馬が直哉に絵葉書を書く。二月二十三日の書簡を受け取った、近頃はアナクレオンを読んでいる、モーパッサンを次便で送る、など。（『志賀直哉宛書簡』）
- 3・18（水） 午前、武者小路実篤が志賀家に来宅し、校正をする。午後、直哉は里見弾の所に行き、有島生馬の絵を見る。（日記）
- 3・19（木） 午後、直哉は烏合会に行く。明治座で「歌舞伎物語」を二幕見、新富座で喜多村緑郎の「河庄・紙治」を見て、いいと思う。（日記）（手帳10）補⑤P299）（『続々歌舞伎年代記』坤の巻）
- 3・20（金） 午前、武者小路実篤が志賀家に来て校正。午後、直哉は警醒社に行く。夜、服部他之助に招待されて行く。藤沢古雪、田村寛貞、柳宗悦も来る。（日記）

3・21(土) 午後、直哉は柳宗悦に誘われ、上野の音楽会に行く。これからは時々行くと思う。(日記)

3・22(日) 直哉は、朝から、志賀英子・直三・淑子、石井と浅草に行く。電気館・玉乗・十二階など。午後三時半頃帰宅。夜、武者小路実篤と松村務が来宅。(日記)

有島生馬が直哉に絵葉書を書く。パリ二十六日の消印、麻布四月十六日の消印。(『志賀直哉宛書簡集』)

3・23(月) 直哉は午前正親町公和の所に行く。武者小路実篤がいる。午後、里見淳の所に行き、有島生馬の油絵を見る。夜、

「新声」と高山樗牛を読む。(日記)

3・24(火) 直哉は、犬の鷺を洗う。束縛を嫌う犬の姿を見て感じた事を手帳に記す。夜、高山樗牛を読む。(日記)〔手帳10〕補⑤

P 300～302

直哉は、木下利玄に絵葉書を書く。明後日の歌舞伎は、米津政賢も行く、など。(M41・3・24木下利玄宛書簡)

この日か？ 柳宗悦は直哉に絵葉書を書く。先日は音楽会で失礼、御依頼のワッツの絵を売っている所をお知らせする、など。

(『柳宗悦全集』)

3・25(水) 午後、直哉は正親町公和の所に行く。夜、武者小路実篤と黒木三次が志賀家に来宅。高山樗牛を読む。(日記)

3・26(木) 〔手帳12〕(Impressions XV)を使い始める。(新『志賀直哉全集』補⑥P3)

朝、直哉は志賀直温にこれから旅行に行くこと挨拶をし、学校へも行かないで何の為にそんな所へ行くこと怒られ、大学はどうすると言われて、やめるつもりだと喧嘩をする。父が出かけてしまい旅費がないので、志賀留女の金七十円を出して出かける。(M41・4・21有島生馬宛書簡)

午後、直哉は歌舞伎座に行く。木下利玄、里見淳、細川護立、米津政賢と落ち合い、「伽羅先代萩」を見る。団蔵の仁木弾正、松助の外記。細川と米津に『旅中日記 寺の瓦』のノートに寄せ書きを貰う。夜十一時の汽車で、木下利玄・里見淳と関西へ出発。(日記)〔寺の瓦〕(里見淳『若き日の旅』)〔里見淳『君と私』十六)〔続々歌舞伎年代記』坤の巻)

3・27(金) 七時頃、直哉ら一行、熱田着。熱田神宮見学。午後一時四十分名古屋発の汽車で伊賀上野に行く。午後五時着。(日記)

〔寺の瓦〕(里見弾『若き日の旅』(里見弾『君と私』十六)

3・28(土) 直哉ら一行、月ヶ瀬に向かう。夕方、笠置山に登り、笠置館泊。(日記)〔寺の瓦〕(里見弾『若き日の旅』(里見弾『君と私』十六)

私』十六)

直哉・里見弾・木下利玄が、月瀬奥ノ谷梅林の絵葉書を、木下利玄宛に出す。(M41・3・28木下利玄宛書簡)

3・29(日)

直哉ら一行、宇治へ。平等院、宇治上神社、興聖寺、黄檗山万福寺を見る。夕方、京都へ。三条小橋の吉岡屋泊。直哉が以前泊まった事のある部屋に通される。夜、新京極で俄を見る。(日記)〔寺の瓦〕(里見弾『若き日の旅』(里見弾『君と私』十六)

『君と私』十六)

直哉・里見弾・木下利玄が、平等院鳳凰堂の絵葉書を、木下利玄宛に出す。(M41・3・29木下利玄宛書簡)

3・30(月)

直哉ら一行、祇園、方広寺、博物館、三十三間堂、養源院の血天井、清水寺、八坂神社、知恩院、南禅寺などを見る。五条坂の骨董屋で直哉と里見弾は歌麿の絵を買う。夜、第二福真亭で娘義太夫を聞く。(日記)〔寺の瓦〕(里見弾『若き日の旅』(里見弾『君と私』十六)

き日の旅』(里見弾『君と私』十六)

3・31(火)

直哉ら一行、比叡山へ登り、坂本から船で大津へ。小林屋泊。(日記)〔寺の瓦〕(里見弾『若き日の旅』(里見弾『君と私』十六)

武者小路実篤が、直哉・木下利玄宛に、奈良市郵便局留置の葉書を書く。『荒野』は三日に発行されるそうだが、忠太郎を書生に使ってくれるよさそうな所があった、など。(『武者小路実篤全集』)

武者小路実篤が、直哉・木下利玄・里見弾宛に、奈良市郵便局留置の葉書を書く。(『武者小路実篤全集』)

有島生馬が直哉に、サラ・ベルナルの絵葉書を書く。パリ四月二日の消印、麻布四月二十一日の消印。(『志賀直哉宛書簡集』)

宛書簡集』)

4・1(水) 直哉ら一行、汽船に乗って、石山寺・三井寺を見、午後、疎水を下って京都へ。夜、花見小路の都踊を見る。(日記)

(寺の瓦)(里見弾『若き日の旅』(里見弾『君と私』十六)

有島武郎が、直哉・里見弾・木下利玄からの葉書を受取る。(有島武郎『観想録』)

4・2(木)

直哉ら一行、東西本願寺を見て、奈良に行く。留置の郵便を受け取る。直哉は喜んで鹿に次々と煎餅をやる。春日神社を経て若草山に登る。大文字屋泊。(日記)(寺の瓦)(里見弾『若き日の旅』(里見弾『君と私』十六)

4・3(金)

朝、直哉ら一行、博物館を見、火打焼の店で昨日木下利玄が忘れた関野貞の美術史のノートを受け取る。見物の虎の巻にしていたノートだった。工藤で写真を買う。午後、新薬師寺を見て、法隆寺へ向かい、高浜虚子の『斑鳩物語』にある大黒屋に泊まる。三人で高浜虚子に出す葉書を考える。(日記)(寺の瓦)(里見弾『若き日の旅』(里見弾『君と私』十六)(未定稿④『或る旅行記』)

*『美術雑談』「仏像について」によれば、大学で関野貞の講義を聴いてから仏像に興味を持つようになった。里見弾・木下利玄と関西旅行をして、奈良・法隆寺・宇治・京都を回ったが、その時に面白いと思ったのは鎌倉時代の仏像。関野の講義で夢殿観音や百済観音のいいことは聞いて知っていたが、その良さがまだ分からなかった。推古仏の良さが分かったのは、『早春の旅』にも書いたように、大分あとになってから。絵の方では法隆寺の壁画がいい、という。

4・4(土)

直哉ら一行、法隆寺を見学。午後、吉野へ。(日記)(寺の瓦)(里見弾『若き日の旅』(里見弾『君と私』十六)

直哉・里見弾・木下利玄が、法隆寺夢殿の絵葉書を木下利玄宛に出す。(M41・4・4木下利玄宛書簡)

直哉は、志賀英子・直三・淑子・隆子に、絵葉書を出す。(M41・4・4志賀英子宛書簡)

武者小路実篤が直哉に、梅田郵便局留置の葉書を送る。『荒野』はまた延びたが、見本が今夜一冊来るので、ざっと見たら送る、忠太郎が今来ている、結婚の話を少し進行させた、など。(武者小路実篤全集)(志賀直哉宛書簡)

4・5（日）直哉ら一行、吉野を回り、下市の弥助で昼食。和歌山へ行き、木下利玄と別れる。（日記）〔寺の瓦〕（里見弾『若き日の旅』）（里見弾『君と私』十六）

直哉・里見弾が、木下利玄に吉野山山口神社の絵葉書を出す。（M41・4・5木下利玄宛書簡）

里見弾が、吉野から直哉に絵葉書を送る。（『志賀直哉宛書簡』*六日付となっているが、五日の誤記。）

4・6（月）直哉と里見弾、和歌の浦を見る。十一時半の汽車で大阪へ行く。明治三十六年四月にも泊まった大川町の千秋楼に泊る。梅田の郵便局で、武者小路実篤の『荒野』を受け取る。乗合自動車に乗る。直哉は自動車に乗るのは初めて。角座で観劇。右団次のお染人形、右之助の善六人形に感服。（日記）〔寺の瓦〕（里見弾『若き日の旅』）（里見弾『君と私』十六）

武者小路実篤が直哉に梅田郵便局留置の手紙を送る。勘解由小路資承に話して、日吉タカとの結婚話を進めつつあることなど。（『武者小路実篤全集』）

4・7（火）朝、直哉と里見弾、丸善に行き、中座で観劇。「伽羅先代萩」「碁盤太平記」「荒木又右衛門」「伊勢音頭恋寝刃」を見る。雁治郎の仁木弾正に失望。（日記）〔寺の瓦〕（里見弾『若き日の旅』）（里見弾『君と私』十六）〔続々歌舞伎年代記〕坤の巻）

直哉・里見弾が、木下利玄に絵葉書を書く。（M41・4・7木下利玄宛書簡）

4・8（水）夜八時二十五分の汽車に乗り、直哉と里見弾、帰京の途に就く。直哉は、里見弾と別れて一人瀬戸内海の島回りをしようかとギリギリまで迷う。（日記）〔寺の瓦〕（里見弾『若き日の旅』）（里見弾『君と私』十六）

直哉・里見弾が、木下利玄に絵葉書を書く。中座の仁木は、わざわざ寄って見る価値はない、など。（M41・4・8木下利玄宛書簡）

4・9（木）夜六時半、直哉と里見弾、新橋着。午前十一時着の予定が大雪で汽車が遅れたため。（日記）〔寺の瓦〕（里見弾『若き日

の旅) (里見淳『君と私』一六)

4・10(金) 午後、直哉は武者小路実篤の所に行く。北尾富烈がいる。夜、三人で正親町公和の所に行くが、正親町公和は元気がない。(日記)

4・11(土) 木下利玄が足守から直哉に絵葉書を書く。(『志賀直哉宛書簡』)
午前、直哉は牛込の祖母・高橋タツの見舞いに行く。夜、柳宗悦が来宅。(日記)

直哉は、有島生馬に葉書を書く。八日の葉書では東西いずれに行くか迷っていると書いたが、吹き降りだったので帰京することにした、武者小路実篤『荒野』がやっと出た、有島生馬と武者小路実篤とは友達になって貰わねばならぬなど。(M41・4・11有島生馬宛書簡)

4・12(日) 午前、武者小路実篤が志賀家に来宅。(日記)

4・13(月) 午後、武者小路実篤と里見淳が志賀家に来宅。(日記)

直哉は、関安子に送った書名を手帳に記す。(手帳12「補⑥」P3)
木下利玄が足守から直哉に葉書を書く。(『志賀直哉宛書簡』)

4・14(火) 午後、直哉は丸善から里見淳の所に寄り、夕方、正親町公和の所に行く。武者小路実篤が来ている。(日記)

4・15(水) 直哉は一日在宅。(日記)

4・16(木) 午後、正親町公和、米津政賢、細川護立が志賀家に来宅。(日記)

4・17(金) 直哉はイブセンの“Hedda Gabler” (“ヘッター・ガブラー”) を少し読む。武者小路実篤に電話をし、誘われて、夜、武者小路実篤の所に行く。松村務も来ている。九時半頃帰る。この日から有島生馬に手紙を書く。(日記) (武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記) (M41・4・21有島生馬宛書簡)

4・18(土) 直哉は“Hedda Gabler”を読む。夜、柳宗悦の所に行くと、郡虎彦と共に、服部他之助の所に行くところだったの

で一緒に行く。(日記)(M41・4・21有鳥生馬宛書簡)

4・19(日)

午前、直哉は柏木の内村鑑三の所に行く。イースターで復活の話だった。「コリント前書」第十五章。午後、中野に行き、運動。夜、柳宗悦・三浦直介・郡虎彦とレバノン教会で内村鑑三の話聞く。(日記)〔手帳12〕補⑥P4)(M41・4・21有鳥生馬宛書簡)

4・20(月)

午前、武者小路実篤が志賀家に来宅。結婚話の状況について武者小路実篤が報告する。十一時過ぎ帰るといので、直哉は清水谷まで送る。午後三時頃、志賀留女と話をし、九月からの生活について、直哉は妹と留女と三人で別居するのが一番いいと主張するが、留女は志賀直温が承知するものかと言いい、愚痴をこぼす。夜、また留女の愚痴を聞かされるが、直哉が関西旅行へ出かけた後、直温が大急ぎで旅費百何十円かを志賀家に届けさせていた事を知り、直哉は感動して泣く。(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)(M41・4・21有鳥生馬宛書簡)

*志賀日記によると、午後、直哉が武者小路実篤の家ついで正親町公和の所に行った、とある。

4・21(火)

朝、直哉は武者小路実篤を訪問。共に正親町公和を訪問。武者小路が日記に、直哉がある時、武者小路を、心に苦しみを持っている人を癒す医者だと言ったと記す。午後、郡虎彦と三浦直介が志賀家に来宅。郡が内村鑑三の所に行きたいという相談だった。郡が文科に行くと言ったら、叔父の石渡敏一に頭ごなしに叱られたと聞く。直哉は、十七日から書き始めた有鳥生馬宛の手紙を書き終える。(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)(日記)(M41・4・21有鳥生馬宛書簡)

木下利玄が直哉・里見弴宛に京都から絵葉書を書く。二十二日の消印。(『志賀直哉宛書簡集』)

4・22(水)

午後、直哉は八十四銀行に行き、明治座を一寸見るが面白くなって帰途、歌舞伎座の千秋楽に行き、「伽羅先代萩」を見る。夜、武者小路実篤が来宅、十時半帰る。(日記)(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)〔続々歌舞伎年代記〕坤の巻)

4・23(木) 直哉は『Black Maria』を半分執筆。(日記)

武者小路実篤が日記に、自分の閉口は新しき生涯に入る不安、直哉や正親町公和の閉口は新しき生涯に入れぬ不安だと書き記す。(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)

武者小路実篤が直哉に葉書を送る。(『武者小路実篤全集』)

有島生馬が直哉に絵葉書を書く。パリ二十四日の消印、麻布五月十六日の消印。昨夜、京都・笠置からの絵葉書を受け取った、友の看病をしている、など。(『志賀直哉宛書簡集』)

正親町公和が直哉に自筆絵葉書を書く。(『志賀直哉宛書簡集』)

4・24(金) 直哉は、午前、『小説「ブラックマライヤ」』(『Black Maria』)完成。午後、武者小路実篤を訪問。一緒に里見弾の所

へ行く。児島喜久雄と田村寛貞がいる。夜、内村鑑三の家の演説会に行く。河面仙四郎、渡辺三造、倉橋惣三の話がある。五月八日は、小野保之、大賀一郎、直哉が演説することになる。(未定稿38)(日記)(武者小路実篤『彼の青年時代』

所収日記)〔手帳12〕補⑥P4~5)

4・25(土) 午後、直哉は、志賀留女、妹弟と鎌倉に行く。(日記)

4・26(日) 午前、直哉は海岸でキシヤゴを拾う。午後、自転車競争を見る。七時頃帰宅。(日記)

直哉は、鎌倉から木下利玄に絵葉書を書く。(M41・4・26木下利玄宛書簡)

4・27(月) 午後、武者小路実篤が志賀家に来宅。直哉と武者小路実篤は三時頃、柳宗悦の所に行くが、まだ学校から帰宅していない。(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)

この頃 直哉は、五月八日の演説にむけて、善悪を計る一番のものさしは、好悪の感情にある、古来偉い人は偶像破壊者だという『好悪と善悪』を考える。(ノート4)補⑥P207~212)

4・28(火) 直哉は武者小路実篤を訪問したが、留守のため正親町公和を訪問。後で武者小路実篤もやって来る。四時頃、直哉と

4・30(木) 正親町公和は、木下利玄を訪問。（武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記）
 午後、武者小路実篤が志賀家に来宅。四時頃、直哉と武者小路実篤は武者小路家に行く。（武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記）

5・1(金) 直哉は《真から知り真から欲する》という事の重要性を説く演説を考える。（手帳12」補⑥P5～8）

5・2(土) 武者小路実篤が唐池から直哉に葉書を送る。（『武者小路実篤全集』）（『志賀直哉宛書簡』）

5・3(日) 直哉は《真から》という事の重要性を説く演説の続きを考える。（手帳12」補⑥P8～9）

午前、直哉は内村鑑三の所を遅刻。中野へ行く。午後、関西旅行の思い出の会をするために、里見弴の所に行くが、家族に留守だと言われる。朝、木下利玄の都合で取りやめになったのに、直哉が出かけていて連絡がつかず、里見弴は待っているうちに寝てしまつて、直哉が来たのに気付かなかつた。（日記）（『寺の瓦』）

5・4(月) 武者小路実篤がCからの手紙を直哉に回送する。（『武者小路実篤全集』）（『志賀直哉宛書簡』）

木下利玄が直哉に葉書を書く。昨日失敬した訳は、里見弴から聞いただろう、里見弴と三人の会は、九日午後はどうか、国文科英文科の件は決定したのでもない、など。（『志賀直哉宛書簡』）

5・5(火) 朝、直哉は武者小路実篤を訪問。十一時頃、共に銀座に行き、共に志賀家に帰宅。武者小路実篤は一時半頃辞去。夜、柳宗悦が来て、郡虎彦のことを相談する。（日記）（『武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記』）

5・6(水) 午前、直哉は薔薇の虫を取り、岩倉道俱を訪問。午後、一緒に田村寛貞を誘つて戸山の原に行く。木下利玄の所へ寄るが留守。木下利玄は里見弴の家で直哉を待つていた。この日、里見弴の家で関西旅行の思い出の会をする予定だったが、直哉は日を間違えていた。（日記）（『寺の瓦』）

木下利玄が里見弴と寄せ書きで、直哉に絵葉書を書く。六日と決めた後、直哉に木下利玄の九日云々の葉書が届いて、延期になったのだと思つたのだろう、九日の午後を集まろう、など。（『志賀直哉宛書簡集』）

5・7(木) 午前、郡虎彦と柳宗悦が志賀家に来宅。午後、直哉と一緒に丸善に行く。(日記)

5・8(金) 直哉は、午後、武者小路実篤を訪問。神田金樹がいる。正親町公和も来る。クリンゲルのエッチング集の『間奏曲』を頼む。六時半頃から内村鑑三の家に行く。(日記(武者小路実篤『彼の青年時代』所収5・9日記)

5・9(土) 午後、里見弾の家に直哉、木下利玄も集まり、旅行の思い出会を開く。『寺の瓦』の朗読をし、旅行を思い出して随分笑う。十一時辞去。(日記(木下利玄日記(『寺の瓦』)

5・10(日) 午前、直哉は内村鑑三の所に行く。午後、中野で運動会。二十八人集まる。(日記)

武者小路実篤が直哉に葉書を送る。(『武者小路実篤全集』)

5・11(月) 晩、武者小路実篤が志賀家に来宅。(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)

5・13(水) 武者小路実篤が直哉に葉書を送る。ソローの『森』を読んで、プレ・クライストという主義を立てたら面白いと思っ
た、など。(『武者小路実篤全集』)

5・14(木) 細川護立が直哉に絵葉書を書く。(『志賀直哉宛書簡集』)

勘解由小路康子と川口武孝との婚礼の日だが、川口武孝が肋膜炎を病んで病床にある為、荷物だけ他人の家に預ける事にし、武者小路家から送り出す。午後、十四日会を正親町公和家で開催。十四日会の講演日の第一回目。正親町公和が『モーダン・ペインター』について講義する。帰途、直哉は、武者小路実篤に「淋しい美しい感じを人に与えるものを書こうと思っている」と語る。(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)

* 川口武孝は川口武定男爵の四男で陸軍士官学校第十六期の卒業生。近衛歩兵第二聯隊附少尉。(阿川弘之『志賀直哉』)

5・16(土) 晩、武者小路実篤が志賀家に来宅。(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)

5・17(日) 武者小路実篤が直哉に葉書を送る。月曜の晩はカルタの件で来てくれるか、など。(『武者小路実篤全集』)

5・18(月) 夕方、直哉は武者小路実篤を訪問。六時半頃から武者小路公共の仲間とカルタ取りをする。(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)

直哉は、有島生馬に葉書を書く。「東京朝日新聞」の島崎藤村『春』・「読売新聞」の田山花袋『生』の切り抜きを送った、松平春光も米津政賢も徴兵は逃れた、とのこと。(M41・5・18有島生馬宛書簡)

木下利玄が直哉に葉書を書く。十九日の消印。(志賀直哉宛書簡集)

5・19(火) 木下利玄が直哉に葉書を書く。二十日の消印。(志賀直哉宛書簡集)

5・20(水) 直哉は、志賀英子・直三と共に、韓国の志賀直温に手紙を出す。(M41・5・20志賀直温宛書簡)

5・21(木) 午後、直哉は武者小路実篤を訪問。二時過ぎ、共に正親町公和を訪問。(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)

5・22(金) Cからの手紙が武者小路実篤に届く。(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)

武者小路実篤が直哉に手紙を送る。日吉タカとのこと、Cに随分御無沙汰しているので音信の節はよろしく、など。

(『武者小路実篤全集』(『志賀直哉宛書簡』)

5・23(土) 直哉の武者小路実篤宛の葉書が届く。(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)

5・24(日) 午後、武者小路実篤が志賀家に来宅。五時頃、直哉と共に丸善に行く。武者小路実篤はビールショウスキーの『ゲーテ伝』を買う。(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)

木下利玄が直哉に葉書を書く。ローレンス先生の試験はやめることにしたので、火曜には行く、三十日の十四日会のため、京都の暮春と東京の初夏を書く、とのこと。(志賀直哉宛書簡)

直哉は関安子へ、ロゼッティ、美術講話、美術史、サロン、ラファエルなどの本を送る。(『手帳12』補⑥P9)

5・26(火) 昼、武者小路実篤が志賀家に来宅。九時過ぎまでいる。直哉がイブセンについての講義をする予定だったが、朝から来客の為、三十日に延期。(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)

5・28(木) 直哉は『山の水車』執筆。四年程前に考え、何遍も書きかけたもの。(未定稿³⁹)

5・29(金) 武者小路実篤が直哉に手紙を送る。明日の作品(小説とおとぎ話)が出来た、『ゲーテ伝』は面白い、など。(武者小路実篤全集)(『志賀直哉宛書簡』)

5・30(土) 武者小路実篤家にて十四日会。直哉は『山の水車』を持って行く。木下利玄は『孤児』の一と二、正親町公和は『疑問』を持参。直哉が『ヘツダ・ガブラー』についての講演をする。(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)

5・31(日) 夜、武者小路実篤が志賀家に来宅。十一時までいる。(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)

6・1(月) 正親町公和が直哉に、丁寧な『山の水車』評を書いて送る。『疑問』の評が出来たのなら富士見町へ送って欲しいとのこと。(『志賀直哉宛書簡』)

有島生馬が直哉に絵葉書を書く。五月二十三日に小包郵便で油絵を送った、など。(『志賀直哉宛書簡集』)

6・2(火) 午後、直哉は武者小路実篤と日比谷で待合わせ、太平洋画会と動物園を見る。(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)

武者小路実篤が直哉に、『山の水車』は、ものたりない、不自然だと批評する書簡を送る。(『武者小路実篤全集』)(『志賀直哉宛書簡』)

6・3(水) 直哉は武者小路実篤『荒野』の扉に書き込みをする。(補④P521)

6・4(木) 直哉は、午後一時半頃、十四日会で、武者小路実篤家を訪問。正親町公和、木下利玄は既に来ている。木下利玄から『山の水車』とその批評を受け取る。木下利玄作『孤児』を受け取る。二時頃から二時間ほど、武者小路実篤が『ゲーテ伝』を講義する。直哉は、夕食後、辞去。(木下利玄日記(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記))

6・6(土) 朝、直哉の武者小路実篤宛の葉書が届く。晩、直哉は武者小路実篤を訪問するが留守なので、八時近くになって正親町公和を訪問し、そこで武者小路実篤にも会う。(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)
朝、武者小路実篤が直哉に葉書を送る。(『武者小路実篤全集』)

『聖書之研究』第百号感謝会が、柏木の内村鑑三の所であり、直哉も出席し、記念撮影。岩波茂雄、グンデルト夫妻、大賀一郎、倉橋惣三など七十六名が参列。（国際基督教大学「内村鑑三記念文庫デジタルアーカイブ」）

* 政池仁『内村鑑三伝』によれば、六月五日から三日間にわたって、今井館開館式及び「聖書之研究」第百号感謝会が開催された。この時、最近ドイツから来て内村の隣に住んだヴィルヘルム・グンデルト夫妻も参加した。

この頃か？ 天野貞祐が、内村鑑三の隣人・グンデルトの子供の葬式の時、直哉に『血笑記』が面白いと言われた事があった。

（対談『内村鑑三その他』（『内村鑑三先生の憶ひ出』）

* 天野貞祐が内村鑑三の聖書講義に出席を許されたのは一高在学中（M39〜42）のこと。（天野貞祐『内村鑑三先生のこと』『追想集 内村鑑三先生』）天野は最初、柏木の今井館に通った。（対談『内村鑑三その他』）

* グンデルトは、内村鑑三を慕って明治三十九年来日、数年間柏木の内村の隣に居住した。（『聖書之研究 総目録』寄稿者紹介）

この頃か？

川面（↓河面仙四郎）・倉橋惣三・志賀直哉の三人が内村鑑三に指名されて演説をさせられたのを天野貞祐が聞いた事があった。（対談『内村鑑三その他』）

6・7（日）

前日から二日間にわたって、上野の奏楽堂で東京音楽学校第十八回春季演奏会が開催される。藤井（三浦）環が、メンドルスゾーンの「エリア」に出演。（田辺久之『考証 三浦環』）

未定稿53『竹本東猿を聴いて』で、この曲に言及しているので、直哉もこれを聴いたか。

6・8（月）

武者小路実篤が志賀家を訪問するが、直哉は留守。（武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記）

6・9（火）

朝、武者小路実篤が志賀家に来宅。十二時まで滞在。直哉も武者小路実篤も元気がなく話はずまない。（武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記）

6・10（水）

木下利玄が直哉に葉書を書く。十四日会は十五日にして欲しい、『孤児』の批評を聞きに行こうか、十三日の昼間が

都合が良い、など。(『志賀直哉宛書簡』)

6・11(木) 夜、武者小路実篤が志賀家に来宅。(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)

6・12(金) 有島生馬が直哉に絵葉書を書く。ルーアンの消印、麻布七月一日の消印。(『志賀直哉宛書簡集』)

6・13(土) 有島生馬が直哉に絵葉書を書く。ルーアン十四日の消印、麻布七月四日の消印。直哉が持っている『ピュヴィス全集』の中にある「ルーアン」の絵を見て感心した、など。(『志賀直哉宛書簡集』)

6・15(月) 午後、十四日会で正親町公和家に、直哉、武者小路実篤、木下利玄が集まるが、正親町公和の講義は準備が間に合わず中止となり、四人で神楽坂を散歩。木下利玄は、六月中に読むと直哉と約束した『フラウゾルゲ』の第一章を読む。

(木下利玄日記)(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)

6・17(水) 武者小路実篤が直哉に手紙を送る。写真と手紙が来たからお送りする、二十一日でもいい、日吉タカについての女学校先生の評判はいい、など。(『武者小路実篤全集』)(『志賀直哉宛書簡』)

木下利玄が直哉に葉書を書く。直哉の病気はその後いかが、『月見草』は二十日にはとても出来ない、細川護立が十八〜二十日の夕方、誘い合わせて来てはどうかと言ってきた、二十一日の件承知、など。(『志賀直哉宛書簡集』)

6・19(金) 午前、武者小路実篤が志賀家に来宅。午後、直哉と共に丸善に行き、武者小路実篤はロダンの彫刻の写真四葉が載っている雑誌を買う。その後、上野動物園、音楽会に行く。(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)

6・21(日) 十四日会。朝、直哉は木下利玄を訪問。午後には武者小路実篤、三時頃には正親町公和もやって来る。四時半頃、四人で新宿の耕牧園に行き、花を見る。(木下利玄日記)(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)

6・24(水) 二時半頃から六時前まで、武者小路実篤が志賀家に来宅。(武者小路実篤『彼の青年時代』所収日記)

6・26(金) 武者小路実篤が、仙台から直哉に絵葉書を送る。(『武者小路実篤全集』)

6・27(土) 有島生馬が直哉に絵葉書を書く。パリの消印、麻布七月十五日の消印。『春』と『生』が到着した、など。(『志賀直哉』)

宛書簡集（一）

木下利玄が直哉に葉書を書く。「Dame Care」（『憂愁夫人』）『フラウゾルゲ』を読んでいる、など。（『志賀直哉宛書簡集』）

6・29（月）

武者小路実篤が、北海道の有島武郎の所から、直哉に葉書を送る。（『武者小路実篤全集』）（『志賀直哉宛書簡集』）

6・30（火）

木下利玄が直哉に葉書を書く。十日余り、人ときあわずに『憂愁夫人』を読んだので読了の見込み有り、明日はお目にかかる、など。（『志賀直哉宛書簡集』）